

# 「仕掛け」の着想を支援するワークショップのスタートアップ教育への適用

Application of Workshop for Supporting Ideation of Shikakes in Startup Education

成田尚宣<sup>1\*</sup> 齊藤哲哉<sup>2</sup> 栗本英和<sup>1</sup>

Takanobu Narita Tetsuya Saito Hidekazu Kurimoto

<sup>1</sup> 東海国立大学機構 名古屋大学 未来社会創造機構 オープンイノベーション推進室

<sup>1</sup> Promotion Office for Open Innovation, Institutes of Innovation for Future Society,  
Nagoya University, Tokai National Higher Education and Research System

<sup>2</sup> BIPROGY 株式会社 総合技術研究所

<sup>2</sup> Technology Research and Innovation Laboratory, BIPROGY, Inc

**Abstract:** 本研究の目的は、仕掛学をテーマとしたワークショップをスタートアップ教育に落とし込むことである。仕掛けアイデアをひとつのビジネスとみなして、我々が提案するシカケキャンパスにより、着想した仕掛けを9要素に分けて多面的に整理・可視化し、仕掛けの実現性を検証しやすくすることができた。さらに、シカケキャンパスでノウハウを習得して、ビジネスアイデアのリーンキャンパスを作成することで、仕掛学からスタートアップ教育につながる橋渡しになる可能性を示した。

## 1 はじめに

近年、スタートアップ教育が積極的に取り組まれている。高等専門学校でも、高専生が企業を含め自由な発想で集中してチャレンジできる環境の整備など、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業が実施されている[1]。

我々は、誰もが楽しく仕掛けられる世の中の実現を目指し、Prismワークショップを実施してきた[2]。Prismワークショップでは、アウトプットとして着想された仕掛けの評価を参加者投票で行うとともに、アウトカムとして参加者自身のセルフアセスメントを実施している。セルフアセスメントは、経済産業省が2006年に提唱した社会人基礎力を指標としている。「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」定義される。これらの能力は、スタートアップ人材にも求められる。本研究では、Prismワークショップを通じて、仕掛けを考案する過程で社会人基礎力を鍛えるとともに、よりスタートアップ教育と融和したワークショップの設計について説明するとともに、実施して得られた知見について報告する。

## 2 方法

### 2.1 ワークショップの構成

研究対象は、福井工業高等専門学校にて学生に対して実施した、「ビジネスアイデアコンテスト2023」の一環として開催された仕掛学を適用したワークショップ(2023年9月20~21日実施、以下、本ワークショップとする)である。受講者は1班6名で構成された。課題は「図書館来館者に薦めたい書籍に興味をもってもらう仕掛け」とした[3]。

本ワークショップは、1日目にPrismワークショップの構成に基づいて実施した[2]。すなわち、仕掛学入門で仕掛学の考え方を理解してもらい、FAD要件や良い仕掛けの事例を理解してもらったうえで、課題に対する仕掛けアイデアを考案してもらった。ただし、Prismワークショップで用いられる強制発想方法は本ワークショップでは適用しなかった。

2日目には、考案した仕掛けをリーンキャンパスに落とし込むワークを行った。その後、ビジネスアイデアコンテストにおいて学生が考案したビジネスアイデアをリーンキャンパスに落とし込み、実行可

\*連絡先: 東海国立大学機構名古屋大学未来社会創造機構 OI 推進室  
〒464-8601 愛知県名古屋市中千種区不老町 NIC  
E-mail: narita.takanobu.b0@f.mail.nagoya-u.ac.jp

能性の検証を行った。

## 2.2 シカケ版リーンキャンバス

リーンキャンバスとは、スタートアップのビジネスモデルを検討するためのフレームワークである[4]。ビジネスモデルを9要素に分解し、起業や新規事業のアイデアを短時間でシンプルに可視化し検証することができる(図1)。またメンバー間の認識共有が容易という利点がある。



図1 リーンキャンバス

本ワークショップでは、仕掛けを一つのビジネスとして捉え、9要素を仕掛けの要素に置き換えてシカケ版リーンキャンバス(シカケキャンバス)を作成しワークに用いた(図2)。

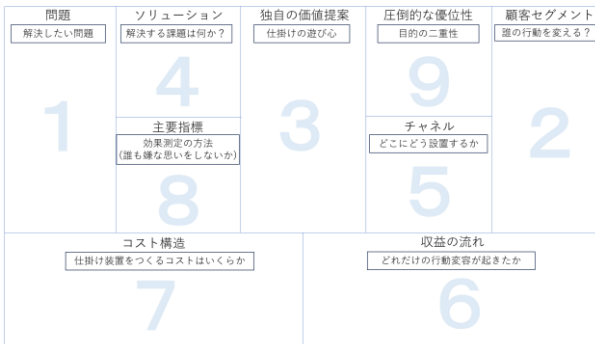


図2 シカケ版リーンキャンバス  
(シカケキャンバス)

## 3 結果と考察

### 3.1 着想された仕掛けのアウトプット

1日目の仕掛けを考案するワークショップでは、6つの仕掛けアイデアが着想された。参加者投票により遊び心の観点では、本のバーコードを利用して発行されるレシートで占いや近隣のおすすめの店の情報が手に入る「しましま」が、納得感の観点では、透明の立方体に異なる形状の穴を側面4面に設け、中に入っている本を取り出す「Help!」がそれ

ぞれ最も多く得票した。尚、「Help!」の仕掛けについては、プロトタイピングを行い、効果測定が実施されている[3]。

### 3.2 シカケキャンバスのアウトプット

シカケキャンバスのワークでは、まず仕掛学研究会で発表されている仕掛けの事例から、各自が選んだ好きな仕掛けをA3サイズのシカケキャンバスシートに書き込んだ。各自作成したシカケキャンバスは、班内で回し読みし、それぞれ気が付いた点等をコメントとして付箋に書き込み貼りつけた。最終的に自分の書いたシカケキャンバスがコメント付きで手元に戻り、シカケキャンバスの使い方を習得した。

次に、ワークショップで着想された仕掛けアイデアから「しましま」を選択し、同様に各自で仕掛けアイデアをシカケキャンバスに落とし込んだのちに、回し読みをして付箋でコメントを付けた。これにより、仕掛けアイデアに対する各自の認識を調整することができたという意見が得られた。

最後に、班全員でA1サイズのシカケキャンバスに付箋を用いて9要素を書き込むことで、仕掛けアイデアの内容を整理し発表を行った。仕掛けアイデア「しましま」のシカケキャンバスを図3に示した。

シカケキャンバスに落とし込むことで、効果測定や設置場所、コスト面を検証し実行可能性を一步踏み込んで検討することができていた。一方で、要素1問題と要素4ソリューションの違いが不明確である点など、今後9要素の内容を精査する必要がある。



図3 「しましま」のシカケキャンバス

### 3.3 ビジネスアイデアのリーンキャンバス

ビジネスアイデアコンテストで学生が考案したビジネスアイデア「Relife」のリーンキャンバスを2日目午後には作成した(図4)。

リーンキャンバスはシカケキャンバス作成時と同様に、最初にA3サイズのリーンキャンバスで各自

が作成後、回し読みをして付箋でコメントを書き込むことで情報共有を行った。その後、班全員でA1サイズのリーンキャンバスを作成し発表した。

シカケキャンバスでのワークがあったことで、リーンキャンバスへの書き込みはスムーズに進んだ。一方で、シカケキャンバスにする際に一部の要素で意味を置き換えた点で戸惑いが見られた。具体的には要素5チャンネルにおいて、シカケキャンバスでは仕掛け装置を置く場所としたが、本来リーンキャンバスでは店舗や広告バナーといったビジネスへのアプローチ方法である点で説明が必要となった。



図4 「Relife」のリーンキャンバス

### 3.4 ワークショップのアウトカム

本ワークショップにおける参加者へのアンケートによるセルフアセスメント結果を図5に示した。この結果、3つのすべての項目で高い評価であった。これまでに実施したワークショップでのセルフアセスメントの結果に比べても、すべての項目で高得点であり、特にチームで働く力が最も高いことが特徴的であった。また前に踏み出す力も高く、仕掛けの持つ魅力的な側面を活かし、スタートアップ教育に前向きに取り組むことができたと考えられる。

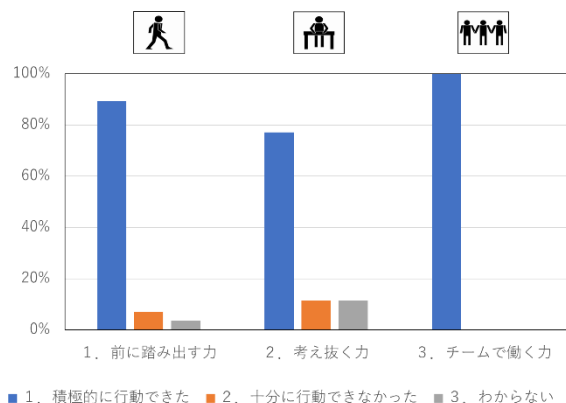


図5 セルフアセスメントの結果

## 4 まとめ

本研究では、Prism ワークショップを通じて、仕掛けを考案する過程で社会人基礎力を鍛えるとともに、よりスタートアップ教育と融和したワークショップを設計し実施した。仕掛けの持つ魅力的な側面を活かし、スタートアップ教育に前向きに取り組むことができるワークショップとなった。

仕掛けアイデアをひとつのビジネスとみなして、我々が提案するシカケキャンバスにより、着想した仕掛けを多面的に整理・可視化し、仕掛けの実行可能性を検証しやすくすることができた。

さらに、シカケキャンバスでノウハウを習得した後に、ビジネスアイデアのリーンキャンバスを作成することで、仕掛けとスタートアップ教育を橋渡しできる可能性を示した。

## 謝辞

本研究は、高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業の一環として実施された仕掛けワークショップで着想されたアイデアを実装化したものです。ここに謝意を示します。

本ワークショップは、福井工業高等専門学校の辻子裕二先生およびNECO・no・Te エンジニア株式会社の岩堀圭吾様の協力を得て行われました。ここに記して感謝いたします。

## 参考文献：

- [1] 高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業：文部科学省，  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/kosen\\_koudoka/0001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kosen_koudoka/0001.htm)
- [2] 齊藤哲哉ら：Prism ワークショップ:「仕掛け」の着想を支援するワークショップの設計と実践，第14回仕掛け研究会，SIG-TBC-014-11，(2024)
- [3] 千京律斗ら：図書館来館者への推薦書籍に対する興味喚起を促す仕掛け，第14回仕掛け研究会，SIG-TBC-014-13，(2024)
- [4] アッシュ・マウリヤ，Running Lean—実践リーンスタートアップ，オライリージャパン，(2012)